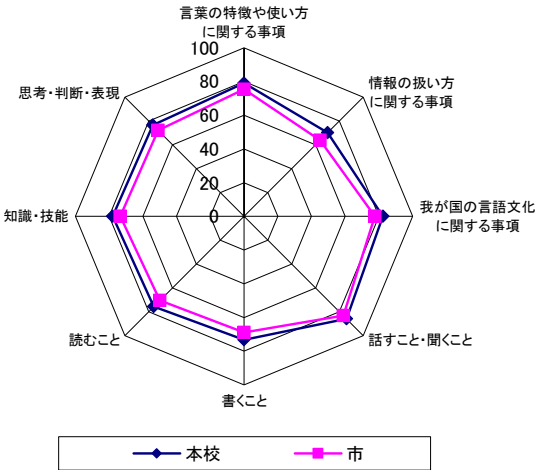


宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.1	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	70.3	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.4	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	85.9	83.2	81.6
	書くこと	73.2	68.9	58.6
	読むこと	75.7	70.5	65.7
観点別	知識・技能	77.9	73.4	66.2
	思考・判断・表現	76.5	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

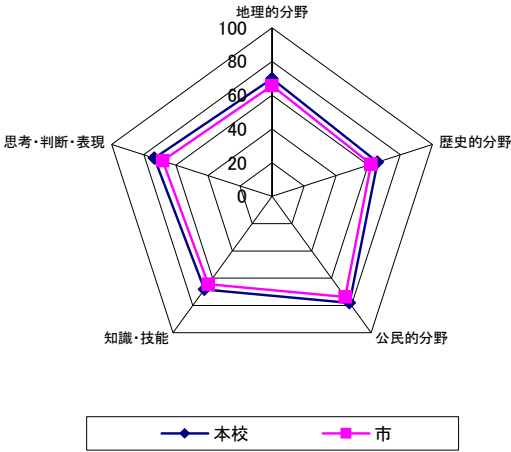
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。8問中7問で、市の平均正答率を上回っている。漢字テストを定期的の実施している成果だと思われる。 ●形容詞と形容動詞といった紛らわしい品詞に関する問題や活用形を答える問題の正答率は、市と同様に低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・中学校で習った漢字について授業中で触れ、漢字ワークで復習する、といった流れを作りたい。 ・文法事項の復習をする。特に、1学年で学習する文法事項は、基礎に当たるので細かく定期的に復習し十分に定着させる。 ・3年生の文法事項の学習の際に、品詞の分類と各品詞の特徴について、既習事項の確認を行う。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.4ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ●情報と情報を繋ぎ合わせ文を整える問題においては、市の平均正答率を上回っているものの、他の問題に比べ正答率は低く、やや苦手の様子が見られる。	・文章中の情報の要点をとらえ、簡潔にまとめる力を身に付けさせるために、教科書で扱う文章や新聞記事の論説等を、短い字数で要約する活動を実施する。 ・語句指定がある記述問題や、条件のある作文などの活動に取り組み、情報を正しく取捨選択するようにさせる。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.8ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ●行書の特徴についての問題においては、市の平均正答率を上回っているものの、同じ領域の他の問題に比べ正答率は低く、課題が見られる。	・歴史的仮名遣いや古語の意味についての指導は、教科書で古典分野を扱う際に、引き続き丁寧に行う。 ・書写の授業を通して楷書と行書において字体や筆順がどう変化するかを意識させる指導をする。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、85.9%と全領域中で最も高く、市の平均正答率を2.7ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ●考えが伝わりやすいよう表現を工夫する問題の正答率が、市の平均を上回っているものと同じ領域の他の問題に比べ低く、課題が見られる。	・聞き取りテストを行うだけでなく、普段の授業で板書しない発言などをメモさせたり、発言の要約や意図を問い、口頭ではなく記述させる活動を適宜行ったりする。 ・授業の中で、他教科とも関連させながらわかりやすい表現を意識したスピーチ的活動を実施する。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.3ポイント上回っている。 ●自分の考えを明確にして書く問題では市の平均を0.3ポイント下回っている。 ●グラフから読み取ったことを数値を挙げて書く問題では、市の平均を上回っているものと同じ領域の他の問題に比べ正答率は低く、課題が見られる。	・読み取った情報と情報との関係を整理・理解した上で記述する必要があるため、記述させる前に、読み取った情報を整理できるように発問やワークシートの利用などの工夫を行う。 ・読み取った内容をまとめ、記述させる際には、必ずその根拠となる内容がどこに書かれているのか、なぜそう考えられるのかも合わせて書くよう指導する。
読むこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.2ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ●文章の論理の展開についての問題では市の平均を上回っているものと同じ領域の他の問題に比べ正答率は低く、課題が見られる。	・論説文における構成の仕組みや展開の流れについて整理させる。 ・説明的文章については、新聞の記事を読ませることで、論理的に説明していく文章の形式に親しませる。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	69.8	65.7	56.7
	歴史的分野	65.8	61.7	54.8
	公民的分野	78.1	73.8	73.3
観点別	知識・技能	68.2	64.5	59.5
	思考・判断・表現	73.4	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

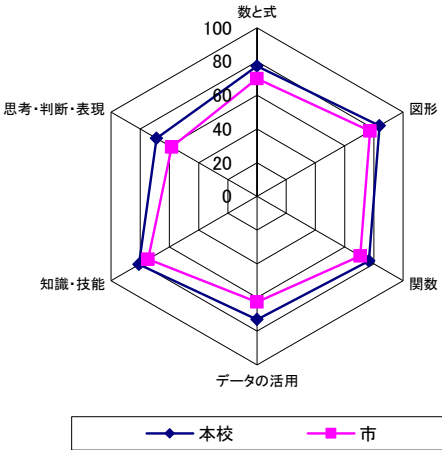
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ○工業地域の出荷額の内訳を区別する問題では、市の平均正答率を10.8ポイント上回っている。 ●瀬戸内の気候の特色に関する問題では、市の平均正答率を11.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地域の特徴を白地図などにまとめながら知識として定着できるように工夫していく。 ・日本の産業の特徴が分かるように、視覚教材を使う機会を増やしながら、自然環境や人口などと連動させ、思考力を高められるようにしていく。 ・単元を貫く学習課題をもとに、自分の考えを論述する機会を作っていく。
歴史的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ○武家諸法度の内容を問う問題では、市の平均正答率を8.0ポイント上回っている。 ●三大改革と狂歌について問う問題では、市の平均正答率を2.3ポイント下回っている。	・単元を貫く学習課題を設定し、学習のまとめとして、自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めしていく。 ・三大改革などの学習においては、それぞれの違いが分かるように表などを活用して、比較しながら違いに気づけるようにしていく。
公民的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.3ポイント上回っている。 ○公共の福祉の意味について問う問題では、市の平均正答率を11.4ポイント上回っている。 ●基本的人権の礎について問う問題では、市の平均正答率を3.9ポイント下回っている。	・語句についての学習が単純な暗記作業にならないように、法律や制度の存在意義を丁寧に解説するとともに、問題演習の機会を増やし、確実な知識の定着を図っていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.3	69.9	66.4
	図形	83.9	77.4	68.1
	関数	76.7	70.6	60.8
	データの活用	73.1	62.7	54.2
観点別	知識・技能	80.9	74.6	70.3
	思考・判断・表現	68.8	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

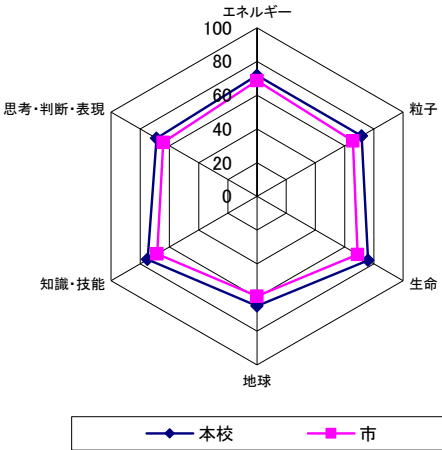
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.4ポイント上回っている。 ○乗法公式や平方根、二次方程式や連立方程式の問題では、市の平均正答率を10ポイント以上上回っており、基本的な計算力が身に付いている。 ●連続する3つの整数を文字式で表す記述問題では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が59.0%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の技能は、毎日の学習の中で繰り返し指導してたこともあり、この領域の問題は、すべて市の平均正答率を上回っている。さらに定着が図れるよう、今後も継続して指導していく。 ・記述問題に対する苦手意識がある生徒が多い。スモールステップで記述に慣れさせ、文字で表す意味を理解した上で問題演習を繰り返し、十分な定着を図るよう努める。
図形	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ○垂直二等分線の作図や直線の位置関係、平行移動、三角形の合同の証明などの問題で、正答率が80%を上回っており、知識・理解の定着が図られている。 ●おうぎ形の面積を求める問題では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が78.0%であった。	・図形の基本的な性質や作図の技能は、定着が図れている。おうぎ形の面積を求める問題については、公式の単なる暗記ではなく、その意味を十分理解させた上で、多様な問題に活用できるように指導する。 ・図形の性質を根拠を用いて筋道立てて証明したり、見通しをもって作図したりする活動を通して、数学的な見方・考え方を伸ばすよう指導していく。
関数	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.1ポイント上回っている。 ○比例や1次関数の式を求めることや、比例の関係を読み取りyの値に対するxの値を求める問題では、正答率が80%を上回っており、表・式・グラフの関連付けができています。 ●2乗に比例する関数の点の座標を求める問題では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が6割程度と低い。	・関数の領域では、すべての問題で市の平均正答率を上回っており、表・式・グラフの相互の関係について概ね理解ができています。 ・関数と他の領域の融合した問題について苦手意識が強いので、基礎的な内容だけでなく、関数の有用性を感じられるような身の回りの事象に関わる問題などの発展的な内容も授業で積極的に扱い、演習を重ねていくことで更に理解を深めさせる。
データの活用	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を10.4ポイント上回っている。 ○くじをひいて当たる確率を問う問題では、正答率が9割を超え、定着が図れている。 ●度数折れ線を読み取り、その特徴をもとに説明する問題では、市の平均正答率を17.6ポイント上回っているものの、正答率が6割に満たない。	・箱ひげ図や四分位範囲、確率については問題演習を繰り返してきたので、十分な理解が図れている。今後も継続して指導していく。 ・自分では理解していても、説明の際に言葉が足らず、正しく表現できない生徒もいる。日々の授業の中で、自身の答えを述べる際に、正しい数学用語を使わせたり、根拠を明らかにして説明することを意識させたりするなど、継続して指導していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	71.8	68.7	63.6
	粒子	71.7	65.7	64.2
	生命	76.0	68.9	64.4
	地球	65.0	59.2	54.3
観点別	知識・技能	74.9	68.4	64.4
	思考・判断・表現	68.9	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

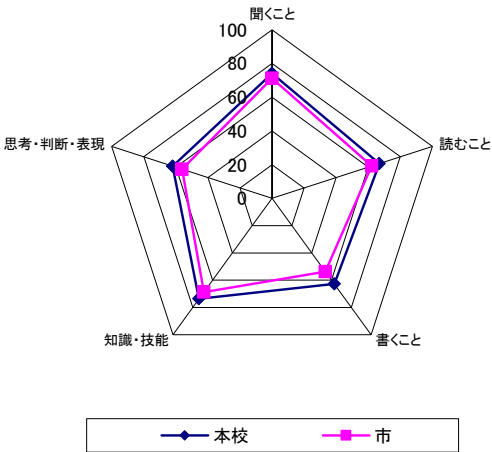
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.1ポイント上回っている。 ●音の性質について正しい実験結果を選択する問題と、正しい磁力線を選択する問題の正答率が市の平均を下回っており、理解が不十分である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の意図を丁寧に確認し、結果の分析、考察を重点的に行うことで、知識の確実な定着を図っていく。また、身近な現象との結びつきを紹介し、主体的に考えられるよう指導していく。
粒子	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ●水の電気分解について、正しい実験結果を選択する問題の正答率が5割程度であり、実験内容の理解不足が見られる。	・実験の意図を丁寧に確認し、結果の分析、考察を重点的に行うことで、知識の確実な定着を図っていく。
生命	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.1ポイント上回っている。 ●生殖細胞や体細胞の染色体の数に関する問題の正答率が6割を下回っており、理解が不十分なところが見られる。	・細胞分裂や遺伝子などは身近なものではあるが、実物を見ることがないため実感が持ちにくく理解につながりにくい。ICTを活用して映像や写真を通して理解が深まるよう指導していく。
地球	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.8ポイント上回っている。 ●前線の断面や天気図の読み取り問題の正答率が6割以下になっており、理解不足が見られる。	・天気や岩石などは身近なものではあるが、知識と結びついていないものが多いため、身近な現象や事物などを取り上げ、実感をともなった理解ができるよう指導していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.1	71.2	65.4
	読むこと	67.0	62.1	56.9
	書くこと	62.8	53.8	42.5
観点別	知識・技能	73.6	68.8	64.7
	思考・判断・表現	62.0	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ●日常的な話題についての英文を聞き、概要を捉える内容理解問題については、市の平均正答率を0.4ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ALTとの授業や、教員と生徒、生徒同士の対話活動などを通して、まとまりのある英語を聞くことに慣れるように指導する。 ・聞くこと・話すことと書くことを関連づけ、英語でやり取りすることに意味をもたせる活動を多く取り入れながら、各技能をスパイラルさせ、さらなる向上を図る。
読むこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。 ●英文の読み取りについての問題では、2問とも市の平均を大きく上回っているが、英文を読み概要を捉えて情報を整理し答える問題については、市の平均正答率と同程度にとどまっている。	・語彙を増やすために、英語を日本語に訳して言葉を覚えさせるのではなく、英語のイメージ・概念で捉えさせる指導を継続する。 ・教科書の本文の内容をおおまかに捉え、情報を整理しながら読むことについて、授業の中で意識して取り入れるようにする。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を9.0ポイント上回っている。また、3文以上の英作文を書く問題では、市の平均正答率を10.8ポイント上回っている。 ●メールを読みその概要を捉えて英文を完成させる問題については、市の平均正答率と同程度にとどまっている。	・定期テストでは、まとまりのある5文程度の英作文を毎回課している。書く力をさらに高められるよう今後も継続的に指導していく。 ・単語テスト・単元テストを継続し、基礎的な内容が確実に身に付けられるようにする。 ・授業において、読むことと書くことを関連させる活動を多く取り入れる。

宇都宮市立星が丘中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多面的に考え、自らの考えを 進んで表出する生徒の育成	・各教室にホワイトボードを据え置き利用する ことやClassroomの利用やJamboardの共 有、学びポケットの活用などを推進する。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に 対する肯定的割合は、1年生が70.3%、2年生が71.5%、3 年生が78.6%であり、1、3年生においては、宇都宮市の 平均を上回っている。
・本時のねらいを共有し、意欲 をもって学ぶ生徒の育成	・授業において『本時の目標』の提示や、ねら いに即した展開をする。この授業で育てたい 力を意識して指導することにより、生徒に授業 の目標や見通しを意識させる。	「学習して、いろいろなことが分かったり、できるよう になったりすることはうれしい」に対する3年生の肯定的割 合が95.1%と非常に高く、学ぶ楽しさを感じ、意欲をもっ て学ぶ姿勢が見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

国・県・市のどの調査においても各教科の領域ごとの正答率は良好である。しかし、家庭学習において学習時間が不足していたり、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的回答が宇都宮市の平均を下回り、昨年度より下がっていたりすることが課題である。習ったことをその日のうちに反復して学習することを繰り返し指導することで、学力不振の生徒も含めてさらなる学力向上を目指す。また、授業においては、表現力の向上を目指して取り組んできたため、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」については、学年が上がるにつれ高くなる結果が得られた。さらに、1人1台の端末の利用も日常化し、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」に対する肯定的回答が、1年生94.3%、2年生94.2%、3年生90.3%とすべての学年で高い結果が得られた。タブレット端末は、総合的な学習の時間の活動のまとめや発表などで活用他、各教科の学びポケットの活用も増えてきた。生徒会や生徒会専門委員会のアンケート集計などの利用も進んでいる。今後は、授業の中での意見交換や、まとめのスライド作りなど協働学習の道具としての活用を進めていくことで、『主体的・対話的な学び』の場面の指導方法を工夫し、自分の考えを広げ深めさせる授業実践を行い、生徒の1人1台端末の活用をさらに進めていく。